高等教育エコシステムの推進

ICED国際会議　テクノロジーの活用を

ICED（International Consortium for Educational Development　国際高等教育開発コンソーシアム）大会が6月5日から7日まで、ケニヤ・ナイロビの米国国際大学アフリカ校で開催された。33か国から244人が集まり、大学における教育開発の実践と研究の知見を交換した。

ナイロビに各国の高等教育開発者が集った

ICEDは、各国の高等教育開発者の国際ネットワークである。今回の大会テーマは「コンピテンシー開発のための高等教育エコシステムの推進」。COVID-19パンデミックによる大学の閉鎖とその後の経験により、学習を促進するための考え方が変化した。学習を促進するためには伝統的な教育方法とテクノロジーを活用した教育方法のバランスをとる必要のある新しい学習環境ができている。教え手と学び手には、実践、観察、新しい知識の創出を通じて、新たな能力が身についた。学習環境の変化により、教育エコシステムに参入するプレーヤーも増えた。

基調講演では、ICEDのカスツーリ・ビハリリーク前会長（ケープタウン大学高等教育開発センター長）は、アフリカでこの間進む「カリキュラムの脱植民化運動」と「デジタリゼーション」という2つの流れがカリキュラムのイノベーションに大きな影響を与えていることを指摘した。一方、コンピテンシーに欠けているのは、コンテキストであるとし、授業・カリキュラムを自らの大学の文脈にあわせて見直す必要性を強調した。

また、高等教育開発実践においても、国境を超えてオンラインで新任教員研修を行う事例など、この間の学習環境の変化に対応した事例が多く聞かれた。一方で、そうした教育エコシステムをどのように持続可能なものにするのかについても論点となった。

高等教育の財政環境はどこの国においても厳しく、積極的なテクノロジーの活用や国内外のネットワーキングによるリソース共有によって、実践を継続する必要があろう。次回大会は2026年スペインのサラマンカで開催予定である。